



RUNNER

Vol.33



活動の現場…2

＜野生動物調査団＞ ミッションその⑤ 残されし巨大な足跡を探れ!…8

羽根標本展示「人と猛禽類の関係」長期飼養ボランティアとしての関わり…10

～ On your side ～

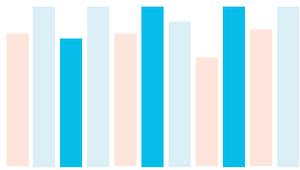
助けられなかった動物たちやこれからの環境に、最も重要なのは意識付けである…12

和泉屋さん特別インタビュー♪…14

足輪プロジェクト…15

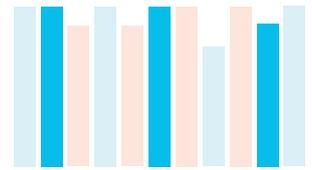
インフォメーション…16

目次



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



第7回 「わくわく野鳥探検隊」の報告

花冷えのする3月30日、自然環境保全センターで小学生を対象とした自然教室が開かれました。例年より寒いと言っても雨もふらず、子どもも保護者もやる気満々でした。

午前中は野外施設における自然観察。なかなか鳥が見つかりません。

今回は初めて哺乳類の足跡探しも含めた内容で、子どもたちの興味は徐々にこちらに移っていきました。雨が降って何日かしてできたちょうどよい具合のぬかるみに二本の蹄の跡が…。しゃがんでじっくり観察します。ここで目をつけた足跡をプラスチックの板で囲い、石膏を流し込んで型を取ります。固まるまで30分。再び野鳥観察に出かけます。

そこで沼を挟んで木の上にアオサギを発見。フィールドスコープで見確認。アオサギは顔を伏せじっとしていました。

少ないと言いつつもこの日観察できた鳥は、ウグイス、エナガ、カワラヒワ、コゲラ、コサギ、アオサギ、コジュケイ、シジュウカラ、スズメ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ、ヤマガラで、声だけ聞けた鳥はアオジ、カワセミ、と計15種にのぼりました。

お昼を挟んで傷病舎見学。オオタカの羽根の立派な模様には驚き、「この鳥はどこが悪いのですか」と質問したり、全員が熱心に説明を聞いていたことが印象に残っています。

つばさを骨折して包帯を巻いているダイサギとふれあいの時を持ち、優しく鳥をなでていました。

その後レクチャールームで動物クイズ。人間の「ひじ」は、シカのどこに当たるでしょう？ など大人でも一瞬考えてしまうようなためになる難問でした。更にためになる痕跡の話を変え、足跡ストラップの作成に入りました。

大きな透明シートにタヌキ、アナグマ、キツネ、テンなどの足跡を油性ペンで書き、オーブンで加熱し紐を通すだけでかわいいストラップが出来上がり。皆夢中になって終わりの合図があっても手を休めませんでした。

記念写真とストラップ、お土産を持ってイノシシなどの足跡の石膏標本をかかえ達成感あふれる楽しい表情で探検隊を解散しました。

スタッフの中にもこの春社会への巣立ちを迎えるものもいて、なんとも慶ばしい春の一日でした。

中村ゆり





第28回 公園緑花まつりの報告

5月11日、12日の二日間、伊勢原市で開催された「第28回公園緑花まつり」に出展参加しました。昨年に続き、野鳥の雛が孵るこの時期に合わせ、～巣立ちの雛を拾わないで、飛ぶ練習をしてるんだよ～、と誤認保護をしないよう呼び掛けをしたり、今期、新たなテーマとして取り組むこととなった「森と水資源と野生動物の関係」に関するアピール活動を展開しました。

このイベント、屋内会場には、他にも、エコ、環境問題に関する展示が並び、外会場は、お祭り気分で、ハワイアンが演奏され、地場野菜や植木の店、屋台などが並びフリーマーケットもあると言った家族連れで楽しめるものなんです。

花と緑に親しむイベントと言うのは、日本が明治時代となり、新しい国として生まれ変わった時に、子供たちが花や緑と親しむ場を作ろうという発案で始まり、今では、全国各地で開催されるようになったと聞きました。しかし現在、人々を取り巻く環境は様々に変化してます。自然破壊やオゾン問題、身近なところでは、水質汚染、外来種・害獣問題などがあります。私達救護の会としては、これらの問題に関し、野生動物救護活動を通して提案出来ること、伝えられることは何か？を、これからも考えていきたいと思えます。



三輪



2019年度 野生動物救護ボランティア講習会の報告

今年も6月15日(土)・16日(日)の両日、神奈川県自然環境保全センターにおいて野生動物救護ボランティア講習会が開催されました。令和が始まって最初のボランティアさんたちを迎える記念すべき講習会です。

TV番組やFM放送で保全センターの活動が紹介されたことが功を奏したのか、2日間で合計63名という多くの方々が受講されました。

初日の15日は事前の天気予報では悪天候が予想され心配しましたが、遅刻者や欠席者も殆どなく、朝8時半の受付開始と同時に続々と来場され、予定通り9時からスタートとなりました。

両日とも講習の内容は例年と大きく変わることはなく、午前中に「野生動物関係の法規について」「神奈川県における野生動物救護の現状とボランティア活動」「野生動物を扱う際の衛生管理」「救護・応急処置と動物の体のしくみ」など、専門的で難しい内容も含む講義でしたが、皆さん熱心に耳を傾けていました。昼休みをはさみ午後は「野生動物救護の理念と目的」「ボランティア活動の実際」「体験研修」「施設見学」が行われました。ボランティア活動の実際の講義では、救護の会のスタッフが、受講生の皆さんが今後センターで行う実際のボランティア活動の内容や、救護の会がセンターの外で行っている活動の様子などをパワーポイントを使ってお話ししました。

また野生動物救護ボランティアの先輩たちによる体験談やボランティア活動を通して感じたことなどの熱いお話もありました。体験研修では前年まで行っていた生体の鳥を使った強制給餌の実習は鳥の負担を考慮し行わず、野生動物を保護する際の初期対応の仕方に変更になりました。初めての試みでしたが写真や人形などを使い受講生が実際に手を動かす実習でしたので、現実に近い体験として身についたのではないのでしょうか。

2日間を通して大きなトラブルもなく、多くのボランティアさんや職員さんの努力のおかげで滞りなく終了しました。受講生のみなさんは今後3日間の実習を経て正式にボランティア登録されます。暑い時期の実習となり大変だとは思いますが、無事に修了され一緒に活動出来ることを楽しみにしています。

かんざきさつき



第9回 夏休み子ども体験教室の報告

台風の進路を気にしながらの7月27日(土)、厚木市七沢の自然環境保全センターに子供達の歓声が響き渡り、第9回「夏休み子ども体験教室」が開催されました。野生動物について学んでもらうため、今回の内容は、傷病鳥獣についてと、海ゴミについてです。

人が生きて行く上で欠かせない『水』、それは野生動物達にとっても同じで、豊かな水が大地を潤し、森を作り、生き物を育むのです。私達は、今年度、神奈川県の水環境保全・再生市民事業支援補助金を受け、調査研究事業を展開している中で、人の手に依って汚される『水』、海ゴミについて考え、そのゴミに依って傷つく野生動物達について学ぶべく環境教育を行いました。傷病舎の見学、餌配りに続き、和泉屋獣医師の話聞き、実際に海ゴミ(釣り糸や釣り針)で傷ついたセグロカモメとカルガモと触れ合うことでゴミを減らすには・・ゴミ拾いも大事だけど、ゴミを出さないことも大事なのは・・と考え、まずは、エコバック作りに挑戦しました。それぞれが自分の好きな絵を描いた自分だけのエコバック、子供達の創造力が凄いですね！素敵な作品が出来上がりましたよ。

昼食を挟んで午後からは、実習<砂の中のゴミ探し>です。ボランティアさん達が雨の合い間を縫って事前に集めてくれた海砂をバケツに入れ、中からマイクロプラスチックを拾い出します。茶漉しやピンセットを使い、どの子も夢中になって砂と格闘してました。そして、たったバケツ一杯の砂の中からも、こんなにゴミが出て来るんだ〜と驚き、ゴミを減らす大切さを感じ取ってもらえたようです。ワークシートに学んだこと、気付いたことなどを記入して取り出したマイクロプラスチックの瓶詰とエコバックと一緒に持ち帰ってもらい無事終了です。今回、ボランティアさん達がアイデアを出し合い、協力しあい、一味違った体験教室が出来たのではないのでしょうか。

三輪



第2回 夜の観察会の報告

2019年8月10日（土）に大雄山でムササビ観察会を開催しました。連日の猛暑日の影響で夕方になっても蒸し暑い中でしたが、8人の方たちが参加してくれました。

参加者一同は、18時からスタッフの解説を聞きつつ針葉樹にできた樹洞や食痕を観察して最初の観察ポイントに向かいました。川にかかる橋の上から目の前の杉の大木にできた樹洞を見上げるとムササビが2頭、仲良くひとつの穴から顔を出していました。しばらく見ていると1頭が樹洞から出て幹を登り始め、続いてもう1頭も出てきました。最初に出てきたムササビは、どんどん幹を登って上の方からもう1頭を呼んでいましたが、数回鳴いた後に川下に向かって飛んでいきました。十数メートルの滑空に参加者&スタッフ一同、大歓声。残る1頭もすぐに飛び出すかと期待して待ちましたが、引っ込んでしまって出てきませんでした。

ちょうどその頃、駐車場や道路のあたりが警察車両の赤色灯やサイレンの音で騒がしくなってきました。もしかしたら怪しい集団（我々?!）がいると通報でもあったかと心配しましたが、どうやら別件だったようです。気を取り直して次の観察ポイントに向かいましたが、だいぶ騒がしくなってしまうムササビ観察には向かない雰囲気になってきました。そろそろ終わりにしようかと移動しかけた時、ひょっこりと1頭のムササビが大木の枝先に現れました。小刻みに頭を上下させて今にも飛び出しそうなムササビを全員で見上げて待ちました。そろそろ首が痛くなってきたと思いだした頃、ふわりと無重力を思わせる滑空で闇の中に消えてゆきました。

今回の観察会では、3頭のムササビを観察することができました。夜空を背景に滑空するムササビの姿は、それを観察する者に生き物の素晴らしさ、自然界の面白さを教えてくれます。「第3回 夜の観察会」は未定ですが、きっと開催しますので次回もぜひご参加ください。一緒にムササビのふわりと宙を舞う姿を観察しましょう。

遠藤順一



第5回 痕跡調査講習会の報告

2019年8月31日（日）、あつぎアミューにおいて第5回痕跡調査講習会を開催しました。今回は「たべたものなあに？」と題して食べ物調査フクロウ編を行いました。この調査が行えたのは、前年度に巣箱調査班が東丹沢某所に設置した巣箱でフクロウが繁殖に成功し、その巣箱の巣材を譲ってくださったお蔭です。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。巣箱の回収はフクロウの幼鳥が完全に巣立ったことを確認できた2019年6月25日の午後に行いました。参加者は巣箱班の安井隊長以下、佐野さん、田中さん、遠藤の4名、今年の長梅雨で元気いっぱいのヤマビルにも負けず森に入りました。最近まで巣箱の近くでフクロウが確認できたということで、しばらく全員で捜索を行いましたが残念ながら発見できませんでした。その後、巣箱を下して回収し、巣箱内の巣材を確認、ビニル袋に入れて講習会当日まで冷凍することにしました。

さて、講習会当日ですが事前にメールで申し込みをしてくれた方は17名、その他の方8名で合計25名が参加してくださいました。講習会は定刻通り13時30分より開始、痕跡班の小林さんが野生動物調査の概要やフクロウの生態、フクロウの食べた物調査のやり方について詳しく解説をしてくださいました。

10分ほどの休憩をはさんで皆さんお待ちかねの調査の時間です。スタッフからピンセット、竹串、紙皿、ビニル手袋、マスク、黒い画用紙を受け取り準備を開始しました。紙皿をもって巣材の配給の列に並び、一掴み分の巣材をもらおうと席についてピンセットと竹串を使い小さな骨や鳥の羽根などのお宝(!?)を夢中になって探していました。最初はなかなか見つけられなかった方も目が慣れてくると次々に巣材の中から骨や羽根を見つけ出していました。当初はこの作業は1時間で終了の予定でしたが、皆さん段々と熱が入ってき てやめられない状態に・・・結局30分延長して半ば強引に終了としました。

最後に痕跡調査講習会恒例の動画タイムです。最近、センター野外施設で確認されている野生動物をランキング形式で発表しました。今回の注目ポイントは、ここ最近アライグマの確認数が増加していることです。センター近隣の民家付近で繁殖も確認されており、おそらく定着しているものと思われます。野外施設の生物多様性に影響が出る前に、センターには対策を考えていただきたいものです。もう一つの注目ポイントは、ツキノワグマの撮影に成功したことです。思えば2年前に野外施設の沼地でツキノワグマの足あとを発見したことが私たちの活動がここまで大きくなるきっかけでもありました。今回、ツキノワグマの動画が撮影されたことを機に今まで以上に野生動物と人のより良い共生の実現と、自然環境および生物多様性の保全の手助けになるような調査活動を行っていきたいと思います。そのためには我々と一緒に調査をしてくれる仲間が必要です。一緒にフィールドワークに行ってみたいなと思われた方は、ぜひ野生動物救護の会・事務局や痕跡調査班のメールアドレスにご連絡ください。調査活動の日程をお知らせいたします。尚、今年度の神奈川県自然環境保全センター内における野生動物痕跡調査活動、および今回開催した講習会は神奈川県「もり・みず市民事業支援補助金」から支援を受けて実施いたしました。

遠藤順一



<野生動物痕跡調査団>

ミッションその⑤ 残されし巨大な足跡を探れ!

皆さんは野生動物たちが普段どんな場所でどんな生活をしているかご存知でしょうか？NPO法人野生動物救護の会野生動物痕跡調査チーム BeasTrace(以下 BeasTrace) では神奈川県立自然環境保全センター内にある野外施設に生息する野生動物の種類や生態を解明しようと活動しています。

こんにちは、今年こそは鷹の渡りを見に行きたいと意気込んでいる調査員の小林です！いつの間にか空を飛び回っていたツバメたちも見かけなくなり、じきに冬鳥のやってくる季節になりますね…。

さて、今回のミッションですが調査員をも震え上がらせたあの動物について探っていきますよ！

私たち BeasTrace がその巨大な足跡と初めて出会ったのは調査チームを発足してからすぐの2017年7月20日のことでした。縦横約10cmにもなる大きな肉球に5本の指と爪痕。(右写真 野外施設番地杭Y3にて撮影) こんなにも大きな動物が野外施設にも生息しているのかと思うとゾッとするほどの足跡でした。

その足跡の発見以来、足跡の正体と思われる動物はカメラにも映らず、足跡すら確認できずにいました。しかし、2019年8月3日再びその足跡がなんと同じ場所で発見されました。(左下写真) 2017年最初に発見された足跡ととても似ています。後肢と思わ



れる足跡は縦約18cm、横約9cmもあります。この足跡の情報をまとめると…

5本指で爪の痕も残されている
前肢：縦約10cm 横約10cm 後肢：縦約18cm 横約9cm
前肢と後肢で足跡の形が違いますね…

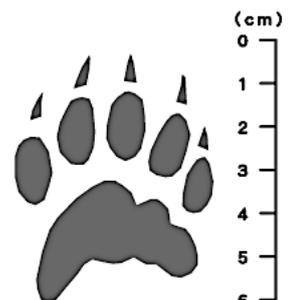
この足跡の正体、みなさんはわかりましたか…？

野外施設で普段から確認できる5本指の足跡を残す動物は、『ハクビシン』『アナグマ』『テン』『イタチ』『アライグマ』です。

なかでもアナグマの足跡は今回の巨大な足跡と形が似ています。(写真右下)

<アナグマの足跡の特徴>

特徴的な5本指と穴を掘るために進化した立派な爪の跡が場所によっては残ります。大きさは成獣でも前肢5～6cm程度です。



アナグマの足跡をもっと大きくしたような今回の足跡。正体は一体なんなのか…

実は!! 今回 BeasTrace のセンサーカメラがその姿をとらえました!! その貴重な写真がこちら!!



この動物、みなさんもうわかりましたよね？

ニホンツキノワグマ

学名 *Ursus thibetanus* 英名 Asian black bear

食肉目クマ科クマ属に分類される

ニホンツキノワグマは

体重なんと55～180kgにもなる

体の大きな動物です。



2019年6月21日 17時33分 番地杭 Y34 付近にて撮影

巨大な足跡の正体は、クマはクマでもアナグマではなくニホンツキノワグマだったんです！
こんなにも大きな野生動物が身近にいると思うとゾッとしますよね？ 初めて撮影されたのは2019年6月21日17時33分、なんとその翌月の2019年7月23日12時34分にも非公開エリア内に設置されたセンサーカメラにて撮影されています。このところよくクマによる被害をニュース等で耳にします。しかし、こんなにも体の大きなニホンツキノワグマ、実は植物中心の雑食性で大きな動物を襲うことは稀なんです。あの大きな手で木の芽や葉、ドングリやアリ、ハチなどの昆虫を食べているんですよ♪クマといえば冬眠のイメージがありますよね？イメージ通り大木の樹洞や岩穴、土穴で冬眠します。そしてメスはこの冬眠中に1～2頭の子どもを出産し、春になると子どもと一緒に穴から出てきます。ニュースを耳にするたびに増えているのではないかと思われませんが、個体数はさほど多くありません。九州は絶滅、四国でも絶滅、もしくは絶滅寸前の状況にあるといわれており、神奈川県でも生息数は40頭前後と推定され、神奈川県レッドデータブック(2006)では、絶滅危惧種とされています。

そんなニホンツキノワグマですが、直接出会ってしまったら大変危険です。山歩きをする際は鈴などの音がなるものを身につけて出会わないようにすることが大切ですが、もし直接出会ってしまったときには、騒がず背中を見せずにゆっくりと後退しクマを刺激しないようにしましょう。

今回のニホンツキノワグマが撮影された野外施設では安全のために現在開園時間を短縮しています。必ずHP等で時間をご確認の上足跡探しにお出かけください。もし巨大な足跡を発見した際はご一報ください！

※ **非公開エリアは立ち入り禁止です。** 痕跡調査チームは特別な許可の下非公開エリアで調査を行なっています。

ルールを守って楽しく野外施設を散策しましょう！

- ・参考文献 小宮輝之(2002)『フィールドベスト図鑑 vol.12 日本の哺乳類』株式会社学習研究社
- 今泉忠明(2014)『アニマルトラック&バードトラックハンドブック』自由国民社

ついに BeasTrace のロゴデザインが完成しました！それはこちら…



今回記事のテーマになっていたクマは2017年の活動開始直後に発見した調査の原点といっても過言ではないほどのものでした。その Bear の痕跡があるということで BeasTrace の部分に足跡をかけ、T の部分は山との調和をイメージしました。今後の調査やイベントで使っていただけたらと思っております♪

今回使用した写真は白黒で動物や足跡がわかりにくいと思います。野生動物救護の会公式ホームページでは見やすいカラー写真で掲載されています。ぜひそちらもご覧ください。次回もお楽しみに!!

羽根標本展示「人と猛禽類の関係」
長期飼養ボランティアとしての関わり

遠藤 順一

羽根標本班は、2019年6月から自然環境保全センター別館入口において「人と猛禽類の関係」という羽根標本展を行いました。この展示では、ハヤブサ、オオタカ、フクロウなどの羽根標本と翼標本を展示するとともに、人と猛禽類の関係について象徴、法律、鷹狩、救護の観点から参考資料に基づき解説を行いました。その中でも今回の原稿で特に皆さんに紹介したいのは、長期飼養ボランティアとして活躍されている3名の会員さんたちのお話です。

《ジローとウィズリー ～長期飼養ボランティアの話～》 ☆Wさん☆

野生動物救護ボランティア登録～1997年。その年に羽に問題を抱えたチョウゲンボウを預かることから始まり今では5種の猛禽類と2種の小鳥（全部で14羽）を預かって来ました。なんらかのトラブルで、もう野生（空）には帰れない鳥たち。飛べなくなった鳥は、かわいそうだからと安楽殺を進める意見もあります。でも人間（私）のエゴかもしれないけど、鳥たちは生きてがっているはず。飛べなくても他にもなんらかの意味があるはず…。と、目指したのがエディケーションバード。環境教育の場で、みんなに野生本来の意味や飛べなくなった理由など考えてくれば～それが長期飼養の目的のひとつ。



「ノスリのジロー」 2006/9 ～ 2012/4

放鷹術（鷹狩りの技術）で、ある程度の訓練をして2006年千葉県我孫子で開催されるJBFに参加。スタッフの努力とジローの参加で、いきなりのオオバン賞受賞。その中でのひとコマ～メインは私がジローを据えて（腕に乗せて）みなさんに話をしますが、私が休憩をするとき他の人に代わっていただきますが、しばらくして人ごみの中からジローの様子を見てると、大人しくはしているけど、キョロキョロとなんだか落ち着かない様子。大勢の人ごみの中からどうやら私を探している…!? と「目」が合う。あきらかに「ホッ」とした様子で落ち着くジロー。いつの間にか「絆」。心温まる出来事でした。このジロー、何度か脱走したけど（私のミス）2012年台風で小屋の屋根が破壊されて脱走。かなり迷った様でしたが最後は自由を選びました。

また会えたら見分ける自信はある（会いたいなぁー）。

「フクロウのウィズリー」 2013/3 ～

我家に来て6年目。他の子達（コミミズク・チョウゲンボウ）エディケーションバードで活躍していて、今まで出番はなかったけど、今年3月にデビュー。これからの活躍に大きく期待。この子が縁でテレビの取材も。おもしろいのは～夜になると野生のフクロウが近くまで来て鳴き交わす。2羽いるときも。そんな時は放してあげたくなるが、翼を傷めているので野生では生きて行けない～ちょっとジレンマ。

20数年猛禽たちとつき合っている事は、安易に飼わないでほしい。環境・知識・家族の理解・病気への対処など～考えなければいけない事も。本来は野生動物、空を自由に飛んでいるはず。その意味を考えて。

《私と猛禽類の付き合い方》

☆Mさん☆



私と猛禽の最初の付き合いは、13年前、野生動物救護ボランティアの講習会を受講した時、先輩ボランティアさんが、傷病鳥獣としてのフクロウを手に乗せているのを見た時に始まります。当時はまだ、フクロウカフェなんてものもなく、せいぜい動物園の檻の中でしか見たことの無かったフクロウ、しかも骨折で野生へ戻れない傷病鳥を目の前にして、衝撃を覚えました。その後、担当獣医の勧めもあり、オオコノハズクを長期飼育ボランティアとして預かり、私と猛禽の関係は長く続くことになるのです。他にも非常に神経質な種で、段ボールで覆ったケージの中でも、落ち着かず暴れるのを見かねて預かることにしたツミ、(救護の会の前のパンフレットの表紙を飾っていた子です)、衝突により右目を失明し、動きも常に傾いていたアオバズクなど8羽の

長期飼育ボランティアをし、現在は右翼骨折のチョウゲンボウを預かっています。一言で猛禽と言っても種によって棲む環境も、食性も違います。私が一番気を使うのは、どこまで野生の状態に近づけるかということです。樹洞で生活するフクロウ種には、中で落ち着ける空間を、枝に止まって休む種には、その脚に合った止まり木を、昆虫を好む種には、マウスだけでなくコオロギ、シルクワームなども取り交えて、と言う具合です。そして、何より彼らは野生だと言うことを肝に命じること。確かに一緒に暮らせば、慣れるし、情も移ります。でも彼らが野生であるということを忘れないことが、彼らに対する礼儀であると思はるのです。

《命名：コノハ》

☆Kさん☆

写真の鳥は、今年の3月に神奈川県自然環境保全センターから我が家にやってきたオオコノハズクです。我が家に迎えるにあたり「コノハ」と名づけました。左翼を骨折してセンターに運び込まれ、傷は癒えたものの折れた翼は元に戻ることもなく、野生復帰は不可能となりました。長らく保全センターの屋外飼育小屋で暮らしていましたが、長期飼育制度のもと我が家でお預かりすることになりました。

私は10年ほど前から野生動物保護ボランティアとしてセンターに通い、動物たちのお世話のお手伝いをしたり、時には短期で動物を預かったことはありましたが、長期飼育は今回が初めてです。しかも小さいとはいえ猛禽類ですので、適した環境を整えたり体調・体重の管理や餌の手配など、試行錯誤を繰り返しながらの毎日です。まだ我が家に来てから2ヶ月ほど(5月現在)ですので、お互いに顔色をみながら仲良く暮らせるように努力している最中ですが、最近は名前を呼んで話しかけたり、手から餌をあげたりすると、機嫌の良さそうな声を出してくれるようになりました。オオコノハズクのような小型のフクロウの寿命は約10~15年といわれています。コノハちゃんは推定5才ですので、順調に行けばこれから長い共同生活になります。自然の中で自由に暮らさせてあげることができませんが、少しでもストレス無く快適に生活させてあげられるよう、これからもっと勉強していかなければと思っています。



三者三様、それぞれの方が鳥たちのために勉強したり、考えたり、工夫をしたりして頑張っていることが良くわかりました。そしてこのような知識と経験を持った人たちが会にいることは、これから長期飼育ボランティアを目指そうと考えている会員の方にとって非常に幸運なことだと思います。

配信メールやHPでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、9月からスキルアップ勉強会を開催しています。参加者一人一人が、気になっている事柄や興味のあることについてみんなで話し合ってみようという会です。是非、気軽に参加していただき自分にとってのステップアップをして下さい。次回開催予定は、2019年10月26日(土)の午後1時から、自然環境保全センター2F・ワーキングルームです。



～ On your side ～



**助けられなかった動物たちやこれからの環境に、
最も重要なのは意識付けである**

**ボランティア歴 17 年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが
ら日々思うことを文章にしてみました。**

～何もそこまでいや、でもやはり環境や動物たちのために～

どんな生き物も何らかの他の生物や植物を食べずに生命維持をする事は出来ない。今、地球規模で問題となっているプラスチックゴミと生ゴミ、これを少しでも減らすためには世界の全人口が意識を高め総力をあげて取り組まないと容易には解決出来ない。亡くなった動物たちの解剖をしたら消化器系の内蔵からプラスチックゴミが大量に出て来たというとんでもない話が昨今舞い込む様になって来ている。どれだけ苦しただろう、吐き戻す事も出来ずもちろん消化されずプラスチックの成分が体内に流れ出て中毒症状もおこしただろう。人間だって七転八倒し意識が遠退き大騒ぎになるのである。動物たちのそれを深刻に考えて同じ犠牲＝人間の文明による、を出さない様

にしなければいけない。

釧路の齋藤慶介獣医師が“環境治療”をコンセプトに日々活動されている。私はさらにそのためには人の意識改革が不可欠だと考えている。今の自分の仕事の中でもちょっとそれって…と眉をひそめる事が多々あるのだがしかし自分ではどうしようもないのだ。それぞれの事業所のやり方には従わなければならないし、異を唱えるとしたら市や県に訴える必要があり、かといって訴えた所で果たして案を受け入れて動いてくれるかとなると些か心もとない。

以前ゴミの件で清掃局に問い合わせた事があったが今はこのやり方なんですという返事のみ。産業廃棄物もどこまで正しく無害に処理されているかわかったものではない。悪徳な奴は必ずいるしそういった連中に限って逆ギレしたり自分勝手だったりするの

だ、そう、まさにあの煽り運転の宮崎文夫や喜本奈津子の様な。それは余談だけれど。

では！自分の日々の生活の中で実行している事をご披露しますので、それ位の次元なら自分もやろうかなと思っていただけたらと思う。戦中戦後世代の両親は物を大事にしなさいと良く言っていた。それに倣った訳ではないが穴の開いた服は小さく切って雑巾に、古くなったり着なくなったりは区役所に設置してある古着入れに投函。シャンプーは2倍に薄めて使い、お風呂にお湯を溜めるのは洗濯物がある日だけ。チンしても汚れなかったラップは軽く洗って干してまた使い、保存袋も破れた所にはガムテープを貼り付けてとことん使う。←これはオードリーの春日もやっているらしい。楽しく節約ケチを貫いているというのを随分前に聞いた事があるが嫁さんが出来た今はどうかな(≧▽≦)

バスタオルも数回使わないと洗わない、今年も活躍してくれたい草のシートには3ヶ所ガムテープが貼ってあるがまた来年も使うぞと決心している。長めの輪ゴムが切れてもそこを縛ればまだ大丈夫だし膝下の医療用引き締めソックスの踵に穴が空いたら足首から切り落として履いている。ポロポロになった100円のビーチサンダルは

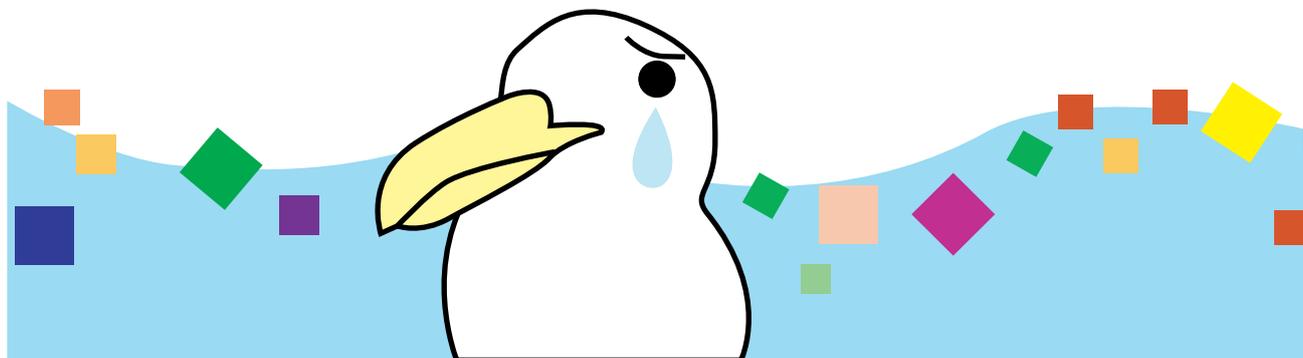
軽く洗って海外でホテルでの部屋履きにしてから“今までありがとうね”とゴミ箱へ。布団カバーはソファカバーやテーブルクロス、クッションカバーに変身したし、あとはあとは……とまあこんな具合で極力捨てないをモットーに楽しく節約をしている。

これは物に対する自分の意識だ。まだまだプラスチック製品に頼らざるを得ない世の中だが、プラスチックが悪い訳ではなく捨てる側と処理する側の意識の問題以外の何物でもないと思う。決められた場所に決められた規則に乗っ取って出し、処理する方も正しく無害にリサイクルする。それだけの事が出来ていないから人間の出したゴミで苦しんだ挙げ句命を落とした動物たちが沢山いるのである。

人間が作った物で人間が苦しむのは言わば自業自得だがそれが動物たちや環境に及んでは絶対にいけない。そのためにも日常的に楽しみながら有意義なエンジョイケチケチとゴミの減量が浸透していく事を願い、実行して行きたい。

亡くなった動物たちに心から謝り、次の子を出さない様にするのは人間の義務だと思う。

～ On your side ～ 助けられなかった動物たちやこれからの環境に、最も重要なのは意識付けである





和泉屋さん特別インタビュー♪

4月より自然環境保全センターに赴任された獣医師の和泉屋さん。今回はお仕事のことからプライベートまでいろいろなお話を伺ってきました！さて、和泉屋さんとはどんな方なのでしょう？

—自然環境保全センターに赴任されて約半年になりませんが、ここのお仕事はいかがですか？

和泉屋：新人ボランティアさんたちの自主研修が8月で一段落したので、ようやく一息つけたところです。今までやってきた仕事と全く違うので、一から勉強中です。

—センターに赴任される前はどのようなお仕事をされてきたのですか？

和泉屋：畜産関係です。家畜保健衛生所、畜産技術センター、県庁などで勤務していました。

主に豚を担当していたので、農家さんに行きって検査をしたり、技術センターでは治療をしたりもしました。県庁にいる時に日本で初めて BSE が発生して大変でしたね。ここの仕事と違うのは、扱う動物が経済動物かそうじゃないかという点ですかね。「命をいただきます」という世界で仕事をしてきたので、考え方は大きく違います。市民への食育などにも関わりました。

—現在ご苦労されている点などは？

和泉屋：自分のペースで仕事ができないところです。野生動物の世話は大変です。突発的な出来事が多いので。いろいろな人に助けられて6か月たちました。経験の長い職員が多いので教わることはばかりです。ボラン



ティアさんにも支えられています。最初はどうしたらいいんだろうと思いましたが、とても助かっています。

—獣医師を目指した理由は？

和泉屋：子どもの頃、テレビで野生の王国という番組を見て思ったんですね。中学生のころから獣医になりたいと言っていました。これを言うと笑われちゃうかもしれないんだけど、幼い時に犬に襲われたことがあるので怖いんですよ、犬が。大きなシェパード2頭に追いかけて。成年なんですけどね（笑）。

—趣味は？お休みの日などは何をして過ごされているのですか？

和泉屋：運動です。特にテニス。中学生の頃からずっと続けています。最初は軟式で途中から硬式に転向しました。一番のストレス発散です。

—今後センターでやってみたいことや、こうしていきたいなどありましたら。

和泉屋：今までセンターで蓄積されてきた経験やデータを元にして、少しでも多くの動物を野生に帰す努力をしたいですね。難しいことも多いですが勉強していくしかない。最終目標はリハビリなどの取り組みとも連携して放野率を上げる事です。

—最後にボランティアさんたちにメッセージをお願いします。

和泉屋：ぜひ時間のある時にセンターに来てください。皆さんそれぞれ得意分野があるので、餌やりや飼養管理以外のところでも手伝ってもらってとても助かっています。これからもいろいろな場面でのご協力をよろしくお願いします。

和泉屋 公一(いずみや きみかず)
自然環境保全センター 自然保護課 獣医師
東京都生まれ、小学4年生より神奈川県
兄・妹の3人兄妹の真ん中

足環Project!!

足環プロジェクトとは

足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることでその個体の生存年数、移動範囲・距離などを知る為の活動です。
詳しくは「RUNNER」vol.16を御覧ください。

～2018年9月から足環を付けて放された鳥たち～

種類	足環番号	放鳥月	放鳥場所
チョウゲンボウ	M5	2018/9/24	相模原市
トビ	M5	2018/12/20	平塚市
フクロウ	M6	2019/5/23	大磯町
フクロウ	M7	2019/5/23	大磯町



(写真提供：神奈川県自然環境保全センター)

左足に赤い足環をつけた野鳥を見かけたら下記まで連絡してください。



NPO 法人 野生動物救護の会

Tel : 0463-75-1830 e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 Tel : 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。

(放野の光景を動画で見ることができます)

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>



インフォメーション

イベント

◆動物フェスティバルよこすか 2019

▽日時:10月6日(日) 10:00~16:00 ▽場所:横須賀三笠公園

☆長命動物表彰、ふれあい広場、搾乳体験、ポニー乗馬、ヤギの体重あてなどが出来る楽しいイベントです。

◆あつぎ環境フェア

▽日時:10月20日(日) 10:00~15:00 ▽場所:厚木中央公園

☆環境活動に取り組む市民団体、事業者、行政等が出展し活動を紹介するイベントです。

◆第38回 秦野市市民の日(はたの市民祭り)

▽日時:11月3日(日・祝) 10:00~15:00 ▽場所:秦野市カルチャーパーク周辺

☆「お宝いっぱい 夢いっぱい」。楽しいイベント盛りだくさんの市民手作りのお祭りです。

◆動物フェスティバル神奈川 2019 in さむかわ・ちがさき

▽日時:11月24日(日) 10:00~15:00 ▽場所:寒川町民センター

☆動物愛護精神の高揚と適正飼育について関心と理解を深めることを目的としたイベントです。

勉強会・環境教育・講演会

◆第2回スキルアップ勉強会

▽日時:10月26日(土) ▽場所:自然環境保全センター ワーキングルーム

☆野生動物保護活動関連で日々疑問に感じている事や分からない点など、皆で意見を出し合って考えてみませんか?

◆エコスクール@秦野市立南小学校

▽日時:11月12日(火) ▽秦野市立南小学校

☆小学生の皆さんに野生動物の現状についてお話しし、一緒に考えます。

◆フィールドスタッフ自然保護講座「神奈川県野生動物の現状と救護活動について」

▽日時:12月7日(土) ▽場所:自然環境保全センター レクチャールーム

☆弊社理事長の渡辺優子がフィールドスタッフと自然観察指導者を目指す人達に講演します。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は10月25日、11月29日、12月27日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

“救護の会 ブログ” 始まっています!

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや

報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページの

「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、設立趣旨にご賛同頂きました皆様方の会費によって運営されております。

どなたでもご参加いただけます

★一般会員:年会費 2,000 円

★学生会員:年会費 1,000 円

私たちの活動を支えて下さる賛助会員も同時に募集しています

★賛助会員:年会費 法人一口 5,000 円/個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】 ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040
名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2019年9月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者:平沼亜矢子 森紀美子 小林夏子 神崎さつき ☆Special Thanks 和泉屋公一様☆